

平成 22 年 4 月 20 日現在

研究種目:基盤研究(C)

研究期間:2007 ~ 2010

課題番号:19520716

研究課題名(和文)

近代大和を中心とした産育習俗の変容に関する民俗学および人類学的研究

研究課題名(英文) Folklore and Anthropological Research on Changes in Childbirth and Childrearing Customs Centered on the Yamato Region in the Early Modern Period

研究代表者

安井 真奈美(YASUI MANAMI)

天理大学・文学部・准教授

研究者番号:40309513

研究代表者の専門分野:人文学

科研費の分科・細目:文化人類学、文化人類学・民俗学

キーワード:出産、育児、子ども、近代、奈良県風俗誌、産婆・助産婦、文化変容、死生観

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、近代大和における産育に関する習俗を、大正4(1915)年に編纂された「奈良県風俗誌」と呼ばれる膨大な史料群から明らかにし、人々の死生観や子どもに対する意識を浮かび上がらせることにある。本研究が近代大和に注目した理由は、「奈良県風俗誌」のように、県下全域で同一の質問項目に従って実施された調査報告は全国に類がないという点にある。

この研究が実現すれば、広く日本の近代における産育習俗の内容と、その意義を分析する際の詳細かつ貴重な資料を提供できることとなる。それは、日本の産育習俗の近世から近代への変容を明確にする研究に貢献できるばかりでなく、現代の医療環境における出産・育児に関しても、批判的に検討する際の資料として活用できると言えよう。

具体的な研究成果は、現存する「奈良県風俗誌」80冊の、出産および育児・子どもに関する記述を翻刻し、基礎的な資料集を刊行することにある。さらに、聞き取りやアンケート調査の方法を用いて、明治・大正期から現代までの出産・育児に関する習俗の変遷も明らかにしていく。その成果を用いて、現代社会のよりよい出産環境を創り上げる手がかりを提示するのが、研究の最終目的である。

2. 研究の進捗状況

(1) 奈良県風俗誌の翻刻

「奈良県風俗誌」に関する資料解説集の出版に向けて、資料の翻刻作業を終え、解説の執筆を進めている。これは、『近代の出産習俗史料——「奈良県風俗誌」を読む』(仮題)

として出版する予定である。

出産に関する資料のテキストはすべて翻刻を済ませた。またテキストに出てくる民俗語彙や出産習俗に関わる用語についての解説集も作成した。

本年度は、解説編の執筆および編集作業を予定している。

(2) 出産に関するシンポジウムの開催

2008年12月に「産む・育てる・伝える——昔のお産・異文化のお産に学ぶ」(於:天理大学)と題してシンポジウムを行なった。2009年10月にはその成果として、『産む・育てる・伝える——昔のお産・異文化のお産に学ぶ』(風響社)を出版した。

(3) 海外での研究発表(フランス・パリ)

科研代表者の安井真奈美が、2009年2月15日から3月16日までの1ヶ月間、フランス高等社会科学研究院(Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales)からの招聘で、日本の<出産>文化について講義するため、パリに滞在した。研究成果をフランスの研究者と共有し、議論を深め、有意義な成果を得ることができた。また今後、日本とフランスの出産文化の比較研究を進めていく足場も築くことができた。

安井が講義を行なった場所は以下の通りである。

*フランス高等社会科学研究院(Antoinette Fauve-Chamoux 教授、Mary Picone 教授)

*フランス国立東洋言語文化大学(イナルコ)日本研究センター(Jean-Michel Butel 准教授)

*フランス高等社会科学研究院(Nilufer Gole 教授・パリ第7大学矢田部和彦准教授)

*パリ第7大学(Hayek Matthias 講師)

*天理日仏文化協会（パリ）

（４）安心な出産のための奈良県アンケート
奈良県の出産環境に関する現状とその問題点を明らかにするために、社会学者・田間泰子、内藤恵美子の両氏と「安心な出産のための奈良県アンケート」を実施し、奈良県内に在住する女性を対象に 5300 通のアンケートを配布、1307 通を回収した（回収率 24.0%）。データの資料編を刊行し、現在、分析編の刊行にむけて作業を行なっている。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

すでに研究成果の一部を複数の論文として発表したほかに、図書 1 冊（安井眞奈美（編著）風響社『産む・育てる・伝える——昔のお産・異文化のお産に学ぶ』2009）、報告書 1 冊（奈良お産アンケートの会、田間泰子・内藤恵美子・安井眞奈美著『「安心な出産のための奈良県アンケート」調査報告書 データ編』2010）を刊行している。また、研究成果をフランス高等社会科学研究所など、海外の研究機関で発表することもできた。

このほか、本研究の集大成である資料集を来年、刊行予定である。

4. 今後の研究の推進方策

（１）学際的研究に向けて

本研究は、これまでの産育に関する文化人類学・歴史学・女性学・社会学・身体論などのさまざまな分野に、基礎的な資料を提供できるばかりでなく、広く「産む」「育てる」ことを通して、人々がどのような文化を創り上げてきたのかという、人間の基層に関わる研究に貢献できるものといえる。

今後は、奈良県風俗誌の翻刻史料をもとに、研究分担者が幅広い視野からディスカッションを重ね、その成果を資料集に反映させたい。

（２）地域研究のモデルケースとして

奈良県の民俗研究・地域研究は、これまで古代に集中し、つねに過去に向かう傾向にあり、近世から近代の民俗に関する調査研究はほとんどなされてこなかったと言ってよい。その意味で、本研究は、一面的な奈良の地域像に、新たな光をあてることになると言える。

また近代大和の人々の生活を史料から再構築するだけではなく、それ以降の変化の様子を、聞き取り調査とアンケート調査の成果からも明らかにしていく。

（３）研究と実践の融合

本研究は、地域社会がどのように産育に関わっていけばよいか、そのプランを作成する際の、有力な手がかりを提示することができる。本研究をもとに、地域に根ざし

た出産・子育てに活かすべく具体的な社会的貢献の方法を検討中である。本年は、「安心な出産のための奈良県アンケート」の成果をもとに分析編の報告書を作成し、また一般の人々に向けての報告会を開催する予定である。研究だけにとどまらず、アンケートによって得られた産む側の女性たちの声をいかに現代社会に活かしていけるのか、その方法論についても検討したい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

安井眞奈美

「近代大和の民俗資料『奈良県風俗誌』——高田十郎の関わりを中心に」『比較日本文化研究』11、pp.120-131、2007、査読有

〔学会発表〕（計 5 件）

安井眞奈美

「妊婦分離埋葬習俗と出産観、生命観について」“On Burial Customs, Maternal Spirits, and the Fetus in Japan” Histoire de la famille, centre de Recherches Historique、2009年2月26日、フランス・パリ フランス高等社会科学研究院

〔図書〕（計 6 件）

飯島吉晴（共著）

吉川弘文館『成長と人生』（日本の民俗 8）2009、pp.1-118

安井眞奈美（編著）、飯島吉晴、齊藤純

風響社『産む・育てる・伝える——昔のお産・異文化のお産に学ぶ』2009、200 頁

安井眞奈美（共著）

奈良お産アンケートの会、田間泰子・内藤恵美子・安井眞奈美著

『「安心な出産のための奈良県アンケート」調査報告書 データ編』2010、360 頁

〔産業財産権〕

なし

〔その他〕

なし